

ラポール Rapport

Asahikawa Kosei Hospital



2022
05

心臓血管
カテーテル
治療センター。

質の高い治療を――。

旭川厚生病院では、冠動脈疾患の治療の際、ほぼ全例で血管内イメージング検査が実施されている。現在、最新の血管内イメージング検査機器が計4機種常設され、病変によって適切な検査を選択することが可能だ。その結果によって、通常のステント留置術だけでなく、方向性冠動脈粥腫切除（directional coronary atherectomy: DCA）や高速回転式アテレクトミーカテーテル（Rotablatorなど）といった特殊治療も提供している。

末はネットワークで接続されており、CT室で作成された3D画像を直ちに心血管撮影室内で参照することが可能だ。血管内イメージングとあわせて、より質の高い治療に貢献している。

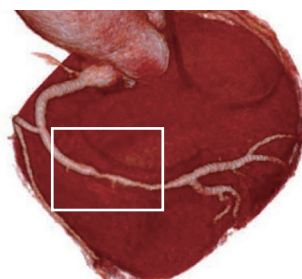
旭川厚生病院ではこれまでも心臓CT検査を冠動脈疾患の診断と治療に積極的に活用してきた。すでに海外のガイドラインでは心臓CTを初期診断として推奨しており、ますます重要な検査法となってくる。

これまでの初診、検査、結果説明と何度も病院に足を運ぶ必要があったが、心臓血管カテーテル外来の心臓CT検査なら当日中に結果説明を受けることが可能だ。胸痛などの虚血性心疾患を疑う症状のある方はもちろん、糖尿病や脂質異常症、高血圧、家族歴など動脈硬化のハイリスクの方には、ぜひ受診をお勧めしたい。

同センターは、心臓だけでなく、下肢動脈などの末梢動脈疾患に対する治療実績も豊富だ。「歩くと足がだるい（跛行）」といった症状のある方の受診も受け付けている。

※同外来は完全予約制です。かかりつけの医療機関からのご予約がスムーズです。

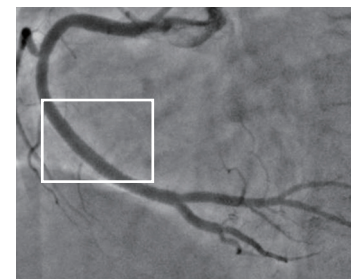
心カテ外来



心臓CT検査
右冠動脈に高度狭窄を認める



冠動脈造影
心臓CT同様に右冠動脈に高度狭窄を認める



カテーテル治療後
良好に拡張されて終了している

ラポール
Rapport
Asahikawa Kosei Hospital

J A 北海道厚生連 旭川厚生病院

旭川厚生病院 検索

〒078-8211 北海道旭川市1条通24丁目111-3 TEL.0166-33-7171 FAX.0166-33-6075

「Rapport（ラポール）」とは、フランス語で「つながり」「架け橋」、心理学用語で「信頼関係」を意味する言葉です。本誌は、旭川市のシンボル「旭橋」のように地域の皆様と当院がつながり、信頼関係を築けるような広報誌を目指します。

取材・編集 / 東洋株式会社 旭川支店



旭川厚生病院
ホームページ



Instagram
アカウント名
asahikawakosei_hospital

誕生

心臓血管カテーテル 治療センター

心臓疾患は日本人の死亡原因の第2位で、年々増加している。その半分を心筋梗塞や狭心症といった虚血性心疾患が占めている。命に直結する病気だから、早期発見、適切な時期の治療が重要だ。現在、虚血性心疾患治療の多くはカテーテルで治療されている。しかし、旭川市を含む上川中部医療圏におけるその実施割合は、札幌圏のおよそ半分、全国平均に満たない数値だ（年齢性別による調整をした人口あたりの件数・内閣府データ）。こうした状況を背景に、より多くの患者さんにカテーテル治療を提供できるようにするため、2020年10月に旭川厚生病院循環器科内に心臓血管カテーテル治療センター（以下・カテーテルセンター）が新たに開設された。快適な環境で、負担の少ない、質の高い治療を提供することを目的とし、患者さんが受診しやすい環境づくりが行われている。



18 心臓血管カテーテル治療センター
心臓血管カテーテル治療センター
Cardiovascular Intervention Center



快適な環境で

カテーテルセンターの特徴の一つは、快適な治療環境の提供だ。手術室に入るときは誰でも緊張するものだが、その緊張を少しでも和らげられるよう工夫されている。一歩足を踏み入れると、手術室（血管撮影室）であることを感じさせない空間に驚かされる。さながらカフェのような雰囲気だ。カテーテルセンターの入口を開けると正面に診察室、左にCT室、右に心血管撮影室がある。白を基調とし床と天井が木目調の室内には、旭川の家具工場で作られた木製の棚が整然と並んでいる。必要な医療機器、材料を効率的に収納できるようにしている。その奥にある操作室も、同様に木目調で統一され、検査治療中の画像を正確に確認するためのモニ

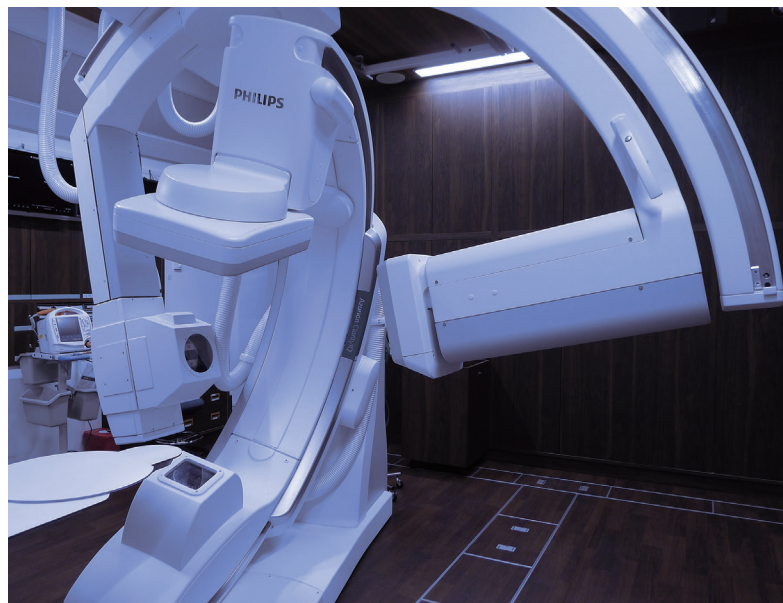


ターがたくさん並んでいる。患者さんにとって快適な治療環境は、治療を提供する医療スタッフにとっても最適な環境といえるだろう。



負担の少ない

旭川厚生病院では、これまでも難易度の高い複雑病変に対するカテーテル治療が多く行われてきた。カテーテル治療では、造影剤を血管に注入しエックス線撮影を行うことで血管を描出する必要があるので、放射線被ばくと造影剤の使用は避けられない。複雑病変の治療では比較的長時間の手術になることがあるため、放射線被ばく



が多くなってしまう懸念があった。当院で採用したフィリップス社製血管造影装置の「Azurion（アズリオン）」は、従来の装置と比べ、画質を落とすことなく、被ばく線量を減らすことができるのが特徴だ。長時間の手術でも、患者さんへの放射線被ばく量は最小限に抑えることが可能になった。